

I 自己評価

1 学校教育目標	1 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 2 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 3 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇第2学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・連絡文書が保護者に届く割合が増えているが、保護者が必要とする内容のものが必ずしも届いていないようである。 ・先生の学習指導・生徒指導・進路指導などに対する評価は変化がないが、学習評価について検討が必要である。 ・学習時間調査によると、学習時間が前年度の2年生より減少しており、学習に対する意欲が低下している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇中堅学年としての自覚と責任を強く持ち、自己管理能力を身につけて望ましい生活習慣を確立する。 ◇落ち着いた日常生活を送る中で、自己の目標の実現に向けて着実に努力する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年団と教育相談・生徒指導との連携と、生徒情報の共有 ・進路指導部との進路についての情報交換 ・保健室や教育相談の先生との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 身だしなみ指導の徹底 (2) 朝読書の実施（毎日） (3) 修学旅行・遠足を通しての班別研修実施と連絡	(1) 身だしなみ指導（定期）での指導生徒が若干名 (2) 朝読書への取組の観察 (3) 生徒の意識・行動	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・必要に応じて学年集会を実施 ・授業(学習)へスムーズに取り組めるよう、朝読書を毎日実施 ・遠足での班別研修実施 ・修学旅行の準備 ・学年通信の発行	①自己管理能力を身につけさせ、生活習慣の確立に向けて学年団が連携して指導できたか。 ②生徒の目標実現に向けて組織的な対応ができたか。 ③修学旅行に向けて、生徒の意識向上が図れているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○朝読書実施は生徒に定着してきており、より内容がある書物を読む生徒も増えてきた。1時間目の授業に落ち着いて取り組めるようになってきている。継続していきたい。 ▲遅刻が多い。遅刻0週間等2年生全体として遅刻指導をしたい。 ○修学旅行が終わって生徒の意識が少し大人になり、生活態度が落ち着いてきたと思われる。さらに来年に向けて意識を高めたい。	
12 来年度に向けての改善方策案（学校評価アンケートを踏まえて）		
・修学旅行について効果的な見学地や方法を検討したい。 ・学年集会などの機会を捉えて、自己管理能力と人への心遣いを身に付けさせたい。 ・進路実現に向けて、進路と連携をして具体的な進路目標を意識させたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

【意見・要望・評価等】

・修学旅行の行き先変更については、十分に検討されており、原爆資料館の見学などの平和学習や北九州の風土や文化の学習がなされており、修学旅行の目的が十分果たされており良かったのではないかと。